

犬との暮らし

岐阜保健所

北島 浩子

この原稿を書くにあたり、しばらくの間、私のメンタルヘルスというテーマについて、いろいろ思いをめぐらせていました。

今、はまっている物（チベット天珠やクリスマスローズ、紅茶など）のことや、周囲の人との関係などについて書き始めましたがなかなか進まず、やはり家族同様いつも心の支えになってくれる「犬」をテーマにすることに行きつきました。

私と犬との出会いは、25年ほど前になります。それまでは、犬をかわいいなんて思うどころか、怖くて近寄れませんでした。

まずは、そんな私の犬との出会いについてです。親しくしていたご家族が、岐阜市内から石垣島へ引っ越し、ペンションを経営することになりました。その準備段階で、そこのご主人と夫が名古屋へ小型ボートの展示会に出かけ、偶然盲導犬に会いました。排泄をしたいのに飼い主に遠慮している姿を見て手助けをし、盲導犬の健気さに感動したという出来事がありました。それをきっかけに、石垣島へ引っ越しをしたご家族は、ラブラドルレトリバーを飼いました。

そのペンションへ出かけた私は、ラブラドルレトリバーに出会い、何日か近くで見て、私が、食べ物を手からあげると、口でそっと取り食べました。その出来事に感激し、その子犬が生まれた時に自宅で飼うことになったわけです。

わが家の愛犬1号、雄のラブラドルレトリバーです。そのころ娘が好きだったディズニーのリトルマーメイドに出てくる王子様の犬から「マ

ックス」と名前をつけました。

ボールを投げて取ってくる遊びが大好きで、家の庭先で、自分用の毛布を持って移動しその上に座って番犬をしてくれました。12歳の夏にがんで、亡くなりました。その1か月ほど前から、体力が落ちて歩くのがやっとという状況でも、気丈にふるまっていました。生きるか死ぬか、立つのもやっとという頃に、マックスが一番好きだった夫が1週間ほど家を留守にするということがありました。毎日、夫を待っている様子がかえたので、「もうすぐ帰ってくるよ。」と声をかけたら、よろけながら玄関のドアの方を向いて立ち上がったのです。その後、夫の帰りを待って夫に看取られ亡くなりました。12年間ともに暮らし、ペットというだけでなく家族であり、気丈な振る舞いと人を思う絆に感動しました。

続いて、2番目の愛犬についてです。この犬は、新築祝いにと前述した石垣島の方から送られたミニチュアシュナウザーの雌です。名前は、これもディズニーアニメから「ベル」としました。マックスが来てから6年目ぐらいで家にやってきました。子どもが学校から帰った時にさみしくないように、子どもが世話をするとよいと思ったのですが、室内で飼っていたので、いつも私の後をついて回り私がかわいくて離せなくなってしまうました。犬と暮らすことの幸せを体感させてくれました。

いつも私の傍らにいてじっと見守ってくれた優しい犬でした。15歳で天寿を全うしました。亡くなる前1、2年は、時々倒れたり、血を吐いたり

ということがあったので覚悟を決めていたのですが、何度も立ち直り、食べられなくて1日ぐらいで亡くなりました。最後までトイレで排泄し、手を煩わせることがなかったです。

3番目の愛犬は、フレンチブルドッグの雌「リンゴ」、通称「リン」です。名前の由来は、娘が付けたのですが、ビートルズのリンゴ・スターからです。時系列でいうとマックスとベルが同時に居て、マックスが死んで、リンが来たということになります。

リンは、今年の7月に亡くなりました。8歳でした。まだまだ生きていてくれると思っていたのですが、徐々に痩せはじめ腹部が膨れてきたので、獣医の診察を受けたら、腫瘍があり肺に転移しており、余命1~2か月と診断されました。病院では、割と平然と受け止めたのですが、家へ帰る車の中では、涙が止まりません。その日から、家に居る時は、目を離さずずっと一緒でした。その間には、こことこことが繋がっているというか、いつも私を待っているという感情が伝わって、思い出されるエピソードは一杯で、原稿に書こうと思っていたのですが、思い出を書けるまでの気持ちの整理が出来ていませんでした。喪失によるグリーフが癒されてゆくプロセスの途中なのでしょうか・・・

リンは、私にとって忠犬で、夫とロケンカをしていると、サッと間に入り夫に向かって威嚇する、お風呂に入っているとバスマットの上で座って待っていてくれる、夜間緊急で仕事に出かけると帰ってくるまで待っていて出迎えてくれるなどの行動とともに、いつも傍らで苦しいとき悲しいときじっと見守っていてくれました。

奇しくも、夏休みの旅行に出かける予定の前日に亡くなり、私が最後を看取ることができました。亡くなった後、私だけでなく家族全員が、リンへの思いがそれぞれあり、みんな純粋に心から泣いていました。それだけ我が家での存在は大きなものだったということがわかりました。

リンは、2歳時に出産しており（この出産、子育ても貴重な体験でした）、我が家に子犬を1匹残したので、これが4番目の愛犬、通称「ハナ」です。

現在、我が家には、ハナがいて、和ませてくれています。リンがいるところは、家の前を誰か通り、何か気配がすると一緒に吠えていたのですが、今はいたって静かで、なぜ吠えるのかわかっていないし、人が呼んでも気が向かないと寄ってこない、猫のように丸くなって寝ている犬ですが、最近、私がお風呂に入っているとバスマットの上に座って待っているようになりました。

この25年の間に4匹の犬と暮らし、それぞれの個性と、犬の純真さ、健気さ、気丈さに触れ、こことここの絆を感じる中で、私の考え方や生き方をみつめることができたと思います。

仕事で苦しい時、姑の介護で辛い時、娘たちの受験、就職で悩んでいた時、自分の病気がわかり落ち込んだ時、傍らにいて純粋な瞳で見つめてくれるだけで、随分助けられました。

犬と一緒に暮らす経験の中で、人に優しくなれたのではないかと考えています。

多いときには3匹いたのですが、今は1匹になりました。これからも愛犬「ハナ」の力をかりながら、メンタルヘルスを保ち、人に優しく仕事を続けていきたいと思っています。

